

甲斐市立敷島南小学校 自己評価書（後期）

平成22年2月2日（火）作成

校長 飯室 文雄

記述者 教諭 丸茂 和也

学校教育目標

《総括目標》 **豊かな人間性と、生きる力を身に付ける子どもの育成**

具体目標 ・明るく元気な子 ・思いやりのある子 ・進んで行動する子
・よく考える子

本年度の経営方針

- (1) 教師として、信頼と愛情に基づく人間教育を推進すると共に、活力ある学校の創造と教育目標の具現化に努める。
- (2) 子どもの人権を尊重すると共に児童理解を深め、一人ひとりの能力や個性を伸長する指導に努める。
- (3) 開かれた特色ある学校・学級経営に努める。
- (4) 教師・児童の健康管理と自他の生命尊重を優先し、連帯感に支えられた教育実践に努める。
- (5) 家庭・地域と密接な連携を図り、地域に根ざした教育の発展に努める。
- (6) 教師として、研究と修養の重要性を忘れず専門性を高めることに努める。
- (7) 適切かつ有効な学校評価（内部評価・アンケート・外部評価・評議員等）を工夫して、学校の説明責任と結果責任を明確にする。
- (8) 保護者・行政・地域社会と協力し、子どもの安全確保に万全を期す。

1 全体評価

保護者へのアンケートを含む今年度2回目の自己評価の概要は、次のようにまとめることができる。

- ・本年度の学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けた具体的な方針と取り組みについて提案し、一人ひとりの教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより本校の総合評価は、前期に引き続きおおむね良好な水準にある。
- ・それぞれの学年経営方針に基づいた適切な学校教育目標が設定され、その目標実現に向けて、適切な学校経営や学年経営が行われている。
- ・学習指導については、わかりやすい授業作りや基礎・基本的な内容の確実な習得に教職員一同が高い意識で臨み、児童の授業への満足度も継続して高くなっている。
- ・あいさつを進んで行う指導や取り組みに関しては、前期に継続して、校内でのあいさつ、家庭でのあいさつ、地域の方々にもあいさつに向上が見られている。
- ・PDCAサイクルの活用は教育活動の様々な場面で図られており、一定の成果を上げてきている。報告、連絡、相談、確認（さらに提案）が機能している。
- ・学校からの情報提供が適切に行われている。また保護者、地域人材、保護者の学習支援を積極的に行われ学校・保護者・地域・関係機関との連携がより図られている
- ・保護者や地域の要望を積極的に聴き、情報の収集に努めている。

* なお、各評価項目の肯定的評価の割合としては、自己評価アンケートにおける「A（そう思う）」

「B(ややそう思う)」を合わせた回答が全体に占める割合(%)とした。

2 項目ごとの評価結果(達成状況・改善策)

学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、肯定的な評価が高い。7つの質問の中で2項目が「A:そう思う」「B:ややそう思う」を合わせると100%、残る5項目は肯定的回答が96%であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも教職員それぞれが学校の教育活動計画に基づきより実態に即した学年・学級経営を推進していくように努力していく意識を高めていく。 ・PDCA サイクルを生かした教育活動をより充実・推進していきたい。そのために様々な教育活動の後にこまめな評価やケース会議開催などをきちんと行い積み重ね改善に努めていく。

学校運営について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用アンケートからは全8項目のうち、肯定的回答が1項目が100%で残りの6項目においては96%、校内研究に関する項目においては84%であった。 ・保護者用アンケートからは、学校運営に関わって全体的におおむね満足される結果を得ることができた。 ・すべての教職員が、相互理解や信頼関係を深めて教育活動にあたることが大切ととらえている。 ・施設設備の安全、防犯防災、情報セキュリティに対する意識は高い。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県地方も大きい自然災害に見舞われることが決して珍しいこととは言えなくなった昨今となり、不測の事態に備え、学校における最大の責務の一つである「子どものいのち・安全を守る」ことの重要性を認識しながら「危機管理マニュアル」を理解する機会を増やし、その意識を増幅できるようにする。また様々な防犯防災に関する情報やその対策を収集することに努め、職員が共有できるようにしていく。 ・職員会議や校内研究会をはじめ、学校運営への参画意識をより向上させるために、小グループ化等の組織作りの工夫や話し合いの機会をより多く設けるなどの努力をする中で、各教職員が自分の長所や個性を生かしながら考えや思いを出すことができるよう、話し合いや協議の場等を具体的に改善する。

学習指導について(児童生徒用アンケート等も含めて)

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用アンケートからは全8項目のうちすべてが肯定的回答(100%)であった。 ・児童用アンケートの授業や学習に関する設問である「学校の授業が楽しいですか」「授業はわかりやすいですか」「先生はわかりやすく勉強を教えてくださいか」にはどれも90%以上が肯定的回答となっている。 ・保護者用アンケートの「先生はわかりやすく勉強を教えていると思う」という質問項目に対しては、90%以上が肯定的回答をしている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも基礎・基本の学習内容の定着を心がけ「楽しい授業」「わかる授業」づくりに向けて研究や研修を積み重ねていく。 ・評価規準については教職員それぞれがより実態に即した規準の設定を研究・設定しようと

	<p>努めてはいるが、さらに個や全体の状況に応じた規準の設定や評価方法の明確化を図っていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関しては保護者の関心は高い。そしてよりよい学校教育実現への期待は大変大きいと考えられる。これからも保護者の期待に応える授業づくりに心がけたい。
生徒指導について（児童生徒用及び保護者アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用アンケートからは全8項目において肯定的回答が100%であった。 ・児童用アンケートの「学校が楽しいか」「仲良く遊ぶ友だちがいますか」という設問に対しては93%が肯定的回答をしている。「クラスはみんな仲良しですか」「困ったときに相談できる友だちがいますか」については87%の児童が肯定的回答となっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に引き続きいずれの質問に対しても、肯定的な回答がほとんどであり、生徒指導についての教職員の意識も高く、適切な指導に努めていると判断できる。 ・児童の問題行動等に関しては、それを防ぐ指導、また早期発見や早期対応をより心がけると共に、ケース会議などや情報の交換を積極的に行い全職員が課題を共有しながらの取り組みを今後とも継続する。 ・あいさつの取り組みについては、今後とも家庭や地域への協力を呼びかけていく。
地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員用アンケートでは ~ の項目のうち3項目において肯定的回答が100%であった。残る5項目においても、肯定的な回答が91%以上であった。 ・評議員制度についての保護者への認知は昨年度に比べ高まってきている。 ・質問 「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かしているか」については、具体的に地域人材の活用を行ったことで結果に向上が見られている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 活動に協力的な保護者が増えてきている。また教職員も保護者が PTA 活動に協力的であり、児童の安全確保に努めているという認識をもっている。今後とも学校、保護者、地域が一体となった学校教育を目標に力を尽くしていく。 ・今後とも教科や領域等で、地域の人材の情報を収集し、外部人材として授業へ活用するような教育活動をより進めていく。 ・学校の教育活動を便りやホームページなどで発信して地域や保護者の学校教育への関心を高めてもらう努力をしてきたが、今後さらに保護者や地域の声に真摯に耳を傾け、連携を深める努力と工夫をしていく。
学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全部で5つの項目があるがA評価が多く、肯定的評価が100%となっている。質問 「読書活動への取り組み」に関しては、本校の特色の一つとして全校読書の回数や読み聞かせ等を強化したこともあり特に肯定感が高い。 ・児童へのアンケートに、本校のオリジナル質問として「音楽集会の取り組みをがんばりましたか」「南小祭りの取り組みをがんばりましたか」を設定した。本校の特色の一つである音楽活動や伝統的行事への取り組み意識は肯定的な回答が98.7%と高くなっている。それに伴う保護者アンケートでの設問も99.1%が肯定的回答であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、読書活動、たてわり活動は本校の教育活動の大きな特色である。これら自校の特色をしっかりと確認し新教育課程移行期であることを踏まえながら、子どもたちのよりよい成長を目標とした取り組みを工夫して日頃の指導や活動を続けていく。また、こういう取り

組みを通して子どもたちの自己肯定感や有用感をさらに高める機会としていく。

3 まとめ

<成果>

教職員，児童，保護者アンケートでどの項目に対してもおおむね肯定的評価が得られたのは，学校評価事業で出された成果や課題を踏まえた取り組みの成果の表れと考えられる。この評価事業の内容を今後の教育活動に生かす手だてを具体的に検討・実行することで，よりPDCA サイクルが機能するシステムづくりの実現を目指していく。

<課題>

自己評価アンケート，児童へのアンケートなどいずれも大きな問題点は見出されなかった。しかし日々変化する教職員や児童，地域を取り巻く状況に迅速かつ適切な対応をしたり，より三位一体となった教育活動を展開していく必要がある。地域人材や施設の活用および教育活動の保護者や地域への積極的発信や，職員間の相互理解や信頼関係をより深められる取り組みの充実，子ども一人一人の実態をよく理解して個に応じた指導支援の一層の充実を図り，子どもの心身共に健やかな成長を目標に努力を重ねることが必要である。